

第3回黒石市新型コロナウイルス感染症総合対策本部会議 概要

日 時：令和2年4月7日（火）午後3時30分

場 所：黒石市役所 庁議室

1 本部長あいさつ

前回対策本部開催した後、県内でもだいぶコロナウィルスの状況に変化が見られてきた。今後市民の安全・安心をどのように確保していくのかということが我々に問われている。コロナ対策については、市民一丸となって取り組まなければ、撲滅できない。そのような認識のもとで、当市でも一つひとつの問題に取り組んでいきたいと考えているので、各担当においては、自分たちの立場というものを十分踏まえたうえで、今後の対応に取り組んでいただくよう、お願いしたい。

2 各部における新型コロナウイルス感染症へのこれまでの状況報告、今後の対応について

総務部

- ・手指消毒液やマスク・庁内消毒用品の確保。今後も消毒液等の消耗品確保に努める。確保できたものは各公共施設へ消毒液等の補充を順次している。
マスクの購入・寄贈されたものは、小中学校の入学式や給食用に活用している。
- ・窓口課へ手指消毒液配布及び窓口の清掃依頼及び対応記録の作成記録を各課依頼。旅行等報告書の提出依頼予定。
- ・消防団幹部会議等を中止。

商工観光部

- ・新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、産業会館会議室の民間団体等への貸出を制限する。
- ・3月に各種特別融資制度を受けるための条件である中小企業信用保険法に基づく市の認定を3件行っており、現在1件の相談を受けている。そのうち2件が専決処分した信用保証料補給金と連携する県の経営安定サポート資金（災害枠）を活用している。
- ・相談口を設置している商工会議所には13件の資金繰りの相談が寄せられている。そのほか、雇用調整助成金についてはハローワーク黒石管内で23件の相談が寄せられている。
- ・4/18～30の黒石さくらまつり、4月下旬から5月上旬のかたくりの小径、6月上旬のこけし駅伝大会、6月中旬に予定しているこでんてん、7/30～8/5の黒石ねぶた祭りについては中止が決定。

- ・インバウンド事業でJALのファムトリップ事業5/30～6/2を予定、オーストラリアの観光業とプレスの方々を招集し黒石のPRを予定していたが、シドニー羽田間の運休に伴い延期が決定。その他イベントについては今後主催者と話をしながら状況を勘案しながら検討。

教育委員会

- ・開校式については、規模を縮小して実施。
- ・開校式へ出席する児童、入学式へ出席する児童生徒及び保護者のうち、マスクが入手困難な者に対し寄贈を受けたマスクを提供。
- ・消毒用エタノール（18ℓ）を各小中学校へ配布。
- ・長期休業明けの4月7日からは、文科省のガイドラインに沿った対応が基本となる。感染防止対策について、引き続き指導徹底する。
- ・4月の参観日、PTA総会は実施せず、資料配布のみとする等、各学校の実情に合わせて対応する。
- ・運動会は1学期中実施しない。
- ・部活動は活動時間を短縮し、準備・後始末を入れて90分以内として行う。土日も同じ対応。感染リスクに配慮した内容で5月連休明けまで実施する。
- ・社会教育課は図書コーナーや主催事業における小・中・高校生の対応は解除、4月中旬までの公民館等の主催する事業については状況を見るために中止とした。地区や各種団体、貸館対応についてはこれまでと同様、主催者の判断に任せるが、事業実施の場合は感染予防対策を徹底していただく。入館者記録の作成を6日から実施している。
- ・スポカイン黒石の利用を、学校再開を受け制限を解除。指定管理者に対しては感染予防の指導、利用者に関しては指名等の記入の協力をお願いしている。学校施設開放については、4月12日まで中止として関係団体に連絡していたが、学校側と協議した結果、5月6日まで延長することとした。

黒石病院

- ・発生動向を注視しながら、厚生労働省のガイドラインに基づいたマニュアルの改定を行い、取り組みの強化を図るなど適切に対応していく。

企画財政部

- ・落合共同浴場へ注意喚起チラシ（毎戸配布と同じ内容）を掲示。
- ・ミニボートピア黒石の場外販売所の臨時休業（無観客でレースは行われ、電話・インターネットによる投票は継続）
- ・聖火リレー、聖火ビジットの延期。
- ・黒森山ウォーキングセンターの受付休止。
- ・出前講座の受付休止

- ・令和元年度は専決処分及び予備費充用にて予算対応済。令和2年度は通常補正、専決処分及び予備費充用にて柔軟に予算対応する予定。
- ・市民税・県民税の申告期限を3月16日から4月16日とした。
- ・黒石市納税貯蓄組合連合会定期総会後の懇親会の中止。総会の開催を検討中。
- ・市ホームページに新型コロナウイルス感染症に関するページを掲載するなど、他課からの掲載依頼に対応。
- ・「広報くろいし」に新型コロナウイルス感染症に関する記事を掲載するなど、他課からの掲載依頼に対応。

農林部

- ・不特定多数が参加の事業は延期又は中止を視野に入れて進めている。任意団体については、書面議決も可能として進めている。
- ・国の事業関係で必要としている各地域や集落の総会による各種議決については、書面による議決も可能である旨団体へ通知している。
- ・県から通知のあった農業関係における新型コロナウイルスへの対応文書を関係農業者へ通知（畜産部門）。
- ・農業関係者の収入減少による資金繰りに支障がある場合、国から各金融機関（金融公庫、農林中金、農協中央会等）に対し、農林業セーフティネット資金（自然災害や経済的環境変化による一時的に必要な長期低金利）などの融資・貸付についての情報を農業者へ提供。
- ・災害のみならず、経済的環境や今回の新コロナウイルスなどにより収入が減少した場合においても補償する国のセーフティネット収入保険制度への加入推進、加入条件である青色申告の必要性を周知。

建設部

- ・関係団体への注意喚起、工事請負業者の健康管理状況の確認。
- ・窓口受付への消毒液の設置、来庁者の住所・氏名確認。
- ・工事等においてコロナウイルスに起因した履行期限への影響の確認
- ・今後発注する工事等については、工期等に関する情報収集に努めている。

健康福祉部

- ・留め置きしている短期被保険者証を、4月末までの有効期限で郵送した。（国保年金課）
- ・健康教室は感染防止対策を行いながら実施。
- ・くろいし健康づくり応援教室（運動教室）、子宮がん・乳がん検診、総合健診は感染防止対策を行い、委託先との共有を図りながら実施。
- ・乳幼児健診は感染防止対策を行いながら実施。

- ・チビッコ相談（離乳食相談）は1時間5人の予約制で離乳食の提供を中止し、相談のみとする。
- ・ポムハウスは、感染防止対策を行いながら実施。1時間毎3人の予約制。
- ・児童館、児童センターの自由来館、りんごクラブ利用は通常時間で実施するが、不要不急の利用については控えてもらう。
- ・教育・保育施設は新型コロナウイルス感染者発生時の体制についてフロー図作成し配布。
- ・ま～な（スポカルイン黒石で実施している子育てひろば）の休止（令和2年5月14日再開予定）
- ・青森市で消毒液を製造・販売している事業者からりんごクラブ実施施設、教育・保育施設、天使の森へ消毒液の寄贈したい旨の申し出があり、事業者が直接配布。
- ・福祉バスの貸出は4月から再開。
- ・高齢者福祉事業や介護保険事業については、通常通り事業を実施しているが、利用者や職員に感染者または感染疑いが発生した場合は国、県の通知に合わせて休業を含め配慮する。
- ・老人福祉センターの利用については3月31日まで休館していたが、4月1日から通常開館。

議会事務局

- ・議会運営については、議場の入り口前に消毒液を設置し手指消毒をお願いしている。傍聴者に対しても手指消毒及び注意喚起の張り紙等により感染防止対策の協力をお願いしている。主な内容は、発熱や倦怠感のある方は傍聴を見合わせてほしいこと、咳エチケットを心掛けてほしいことなど。
- ・今後の対応については、全国議長会からの要請でもある、他市議会からの行政視察受け入れの停止及び当市議会議員の行政視察の自粛を促すこと。全国市議会議長会、青森県市議会議長会および、国・国会からの情報収集。また県内の議会事務局との情報共有を図りながらことがあれば各会派代表者会議等で協議していく。

農業委員会

- ・農業委員、農地利用最適化推進委員に対して手洗い・うがいを徹底するよう文書で注意喚起している。
- ・事務局所管の2団体は、総会を書面決議とし、懇親会は行わない。

選挙管理委員会

- ・4月24日に当市で開催予定の県都市選管連合会定期総会は中止。
- ・5月～6月に市明推協の総会等を開催予定であるが、今後委員会等で対応を協議する。

監査委員事務局

- ・手洗いと換気の励行、マスクと消毒液を配置。感染者が出た場合は、当分の間閉鎖

し業務再開後に監査等を実施する。

本部長から

国がいろいろ対策を次々にだしてくる状況の中で、我々自治体がどのようにすればいいのかという部分を考えた上で行動計画をつくっていかないといけない。各部・各課において、今後、このコロナウイルス等対策に関することに、自分たちで何ができるのか、そして、どういう対応をしなければならないのか、それをまず、整理して欲しい。その整理したものをこの対策本部でとりまとめる。市民から問い合わせが来た時に、たらい回しにならない状況に作り上げていくことがまず一番大事だと思う。

緊急事態宣言出た時に、不要不急の外出は、青森県においては、地域指定がされていない部分においては、若干は、ゆるさはあるのかもしれないが、我々国民のひとりとしては当然それも考えていかなければいけないとなった時に、結構ストレスがたまってくる。子どもたちにしても、その市民のストレスをどうやってカバーするのか、それも我々がこれから考えていかねばならないと思っている。